

1. アンケート調査の概要

1-1. 調査の目的

本調査は、東京都内の自然公園におけるトレイルランニング等の利用についての意識等を把握し、自然公園の適正な利用を推進していくための「東京都自然公園利用ルール」策定の参考とすることを目的としている。

1-2. 調査の概要

対象		調査実施場所	調査日	有効回答数
登山者（ハイカー、観光客等含む）		高尾山頂、清滝駅	7/5・7/6・11/22	205人
トレイルランナー		高尾山頂、清滝駅 都民の森駐車場前	7/5・7/6・9/20 9/21・10/4・11/22	101人
トレイルランニング大会	参加者	陵南公園	12/6	54人
	他の利用者	小仏城山	12/6	99人
計		5か所	8日間	459人

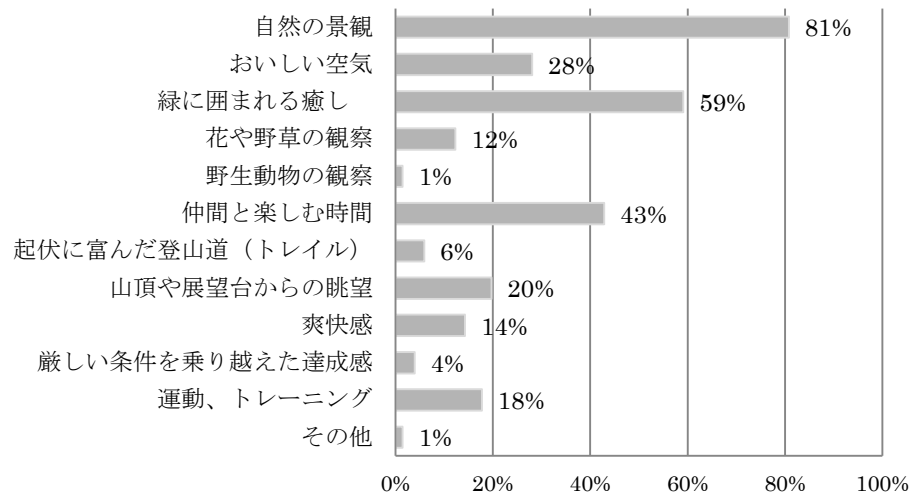
2. アンケート結果の概要

2-1. 登山者へのアンケート結果

Q1. 山になにを求めて来ているのか（目的）（複数回答可）

A1.

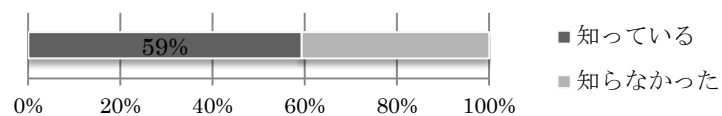
「自然の景観」、「緑に囲まれる癒し」を求める割合が高い。また、次いで、「仲間と楽しむ時間」を求める割合も高い。



Q2. トレイルランニングという利用形態を知っているか

A2.

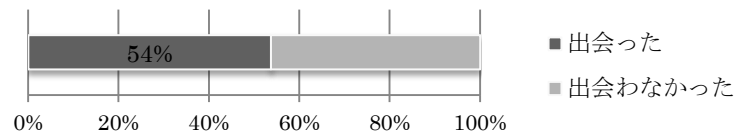
トレイルランニングという利用形態を全体の59%が知っていた。



Q3. トレイルランナーと出会ったことがあるか

A3.

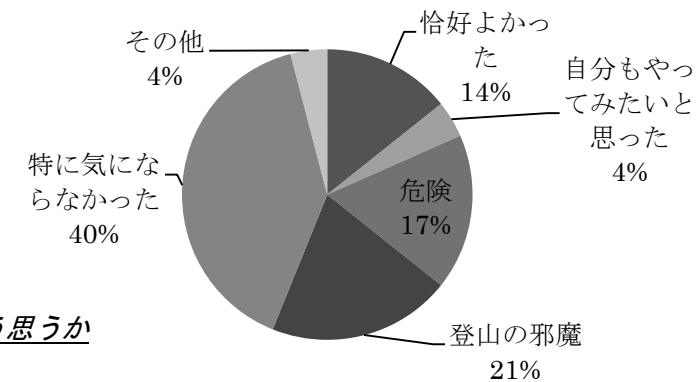
トレイルランナーに実際に出会ったことがあるのは、全体の54%であった。



Q4. トレイルランナーを実際に見てどう思ったか（トレイルランナーと出会った人対象）

A4.

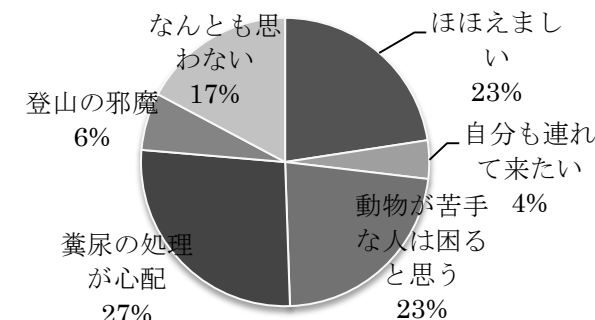
トレイルランニングに対して、全体の38%が悪印象（危険、登山の邪魔）を持っていた。



Q5. 自然公園内でのペット同伴利用についてどう思うか

A5.

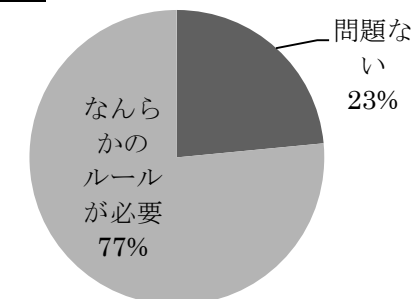
自然公園内でのペット同伴利用については、「糞尿の処理が心配」が27%で最も多く、次いで「ほほえましい」、「動物が苦手な人は困ると思う」が23%となっていた。



Q6. 自然公園内でのペット同伴利用へのルールは必要だと思うか

A6.

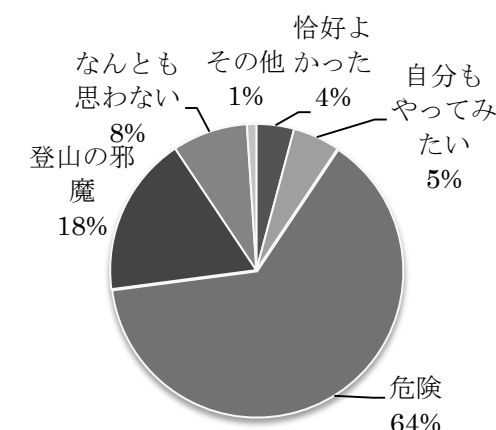
自然公園内でのペット同伴へのルールの必要性については、全体の77%が「なんらかのルールが必要」と回答した。



Q7. 自然公園内でのマウンテンバイク利用についてどう思うか

A7.

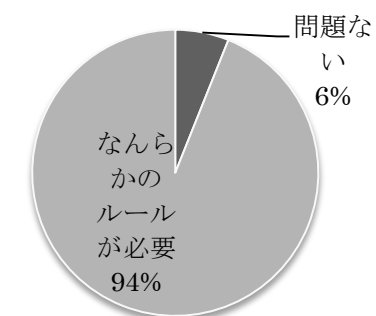
自然公園内でのマウンテンバイク利用についての感想は、「危険」が64%、「登山の邪魔」が18%となった。マウンテンバイク利用について全体の80%以上が悪印象を持っていた。



Q8. 自然公園内でのマウンテンバイク利用へのルールは必要だと思うか

A8.

自然公園内でのマウンテンバイク利用へのルールの必要性については、94%の人が「なんらかのルールが必要」と回答した。

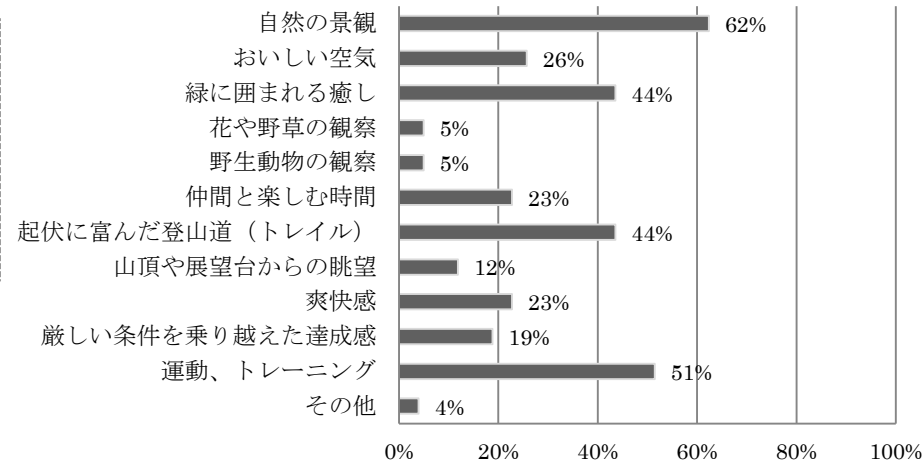


2-2. トレイルランナーへのアンケート結果

Q1. 山になにを求めて来ているのか (目的) (複数回答可)

A1.

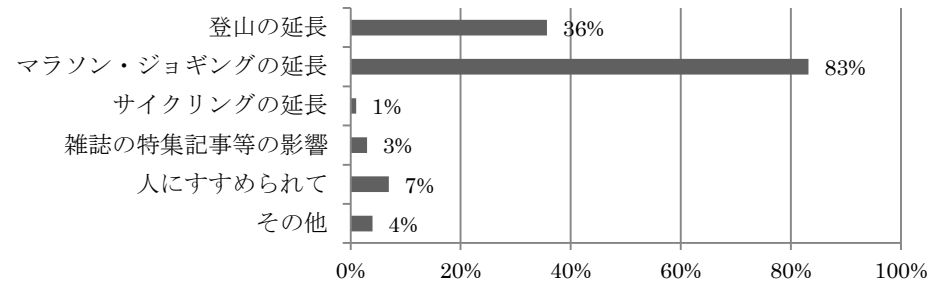
トレイルランナーは山に、「自然の景観」「緑に囲まれる癒し」を求めている。一方で、「運動、トレーニング」や「起伏に富んだ登山道」を求めている結果となった。



Q2. トレイルランニングを始めた経緯は何か (複数回答可)

A2.

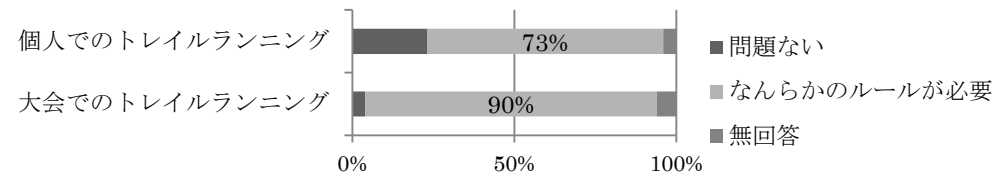
トレイルランニングを始めた経緯としては、「マラソン・ジョギングの延長」が83%と最も高く、「登山の延長」(36%)を大きく上回る結果となった。



Q3. 自然公園内でのトレイルランニング利用へのルールは必要だと思うか

A3.

トレイルランニングの個人利用は73%、大会利用は90%が「なんらかのルールが必要」と考えている。

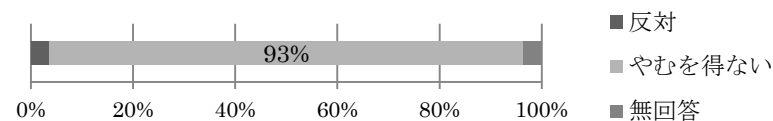


2-3-1. トレイルランニング大会アンケート結果 (参加者へのアンケート)

Q1. 環境保全のためのモニタリングの実施等に伴うトレイルランニング大会の参加費用の高騰についてどう思うか

A1.

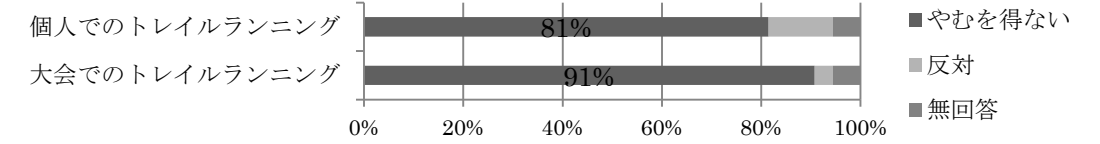
トレイルランニング大会の実施により自然環境へ影響が生じた場合、大会参加費用を値上げし、値上げ分を用いて環境保全に役立てることについて、大会参加者の93%が「やむを得ない」という結果となった。



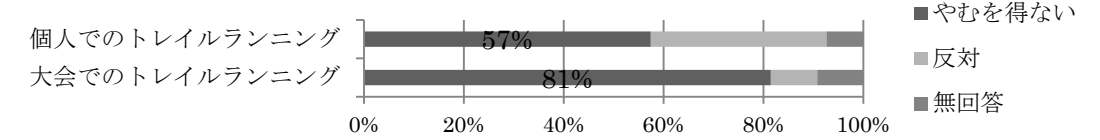
Q2. 仮に高尾山でトレイルランニングが禁止されたらどう思うか。

A2.

○自然研究路1号路が禁止の場合



○自然研究路1号路～6号路、稲荷山コースが禁止の場合



自然研究路1号路が禁止の場合については、大会利用の約90%、個人利用でも約80%が禁止に対してやむを得ないとの回答であった。

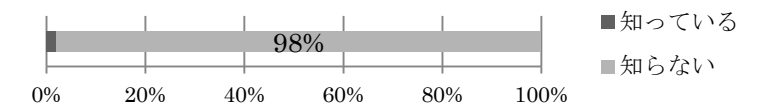
自然研究路1号路～6号路、稲荷山コースが禁止の場合については、大会利用の禁止はやむを得ないとの回答が80%以上であったが、個人利用については、60%弱にとどまる結果となった。

2-3-2. トレイルランニング大会アンケート結果 (他の利用者へのアンケート)

Q1. トレイルランニング大会が開催されることを事前に知っていたか

A1.

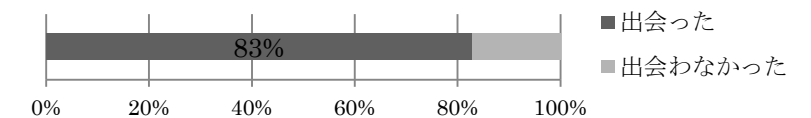
トレイルランニング大会の開催について、事前に知っていたのは全体のわずか2%にとどまっており、事前告知が十分に行われていなかった。



Q2. トレイルランナーとの遭遇したか

A2.

回答者全体の約80%が大会に参加しているトレイルランナーと遭遇した。



Q3. トレイルランナーの印象 (トレイルランナーと出会った人対象)

A3.

トレイルランナーに出会った人の25%がトレイルランニング大会について悪い印象 (危険、登山の邪魔) を持っていた。

